

New York Public Library から学ぶもの 公共図書館との連携の可能性を視野に

1. Frederick Wiseman 監督 Ex Libris: The New York Public Library を観て

① 全92館中、分館は12館のみが取り上げられている

○88の“Neighborhood Libraries (分館(地域館の方が適切か?))”と4つの“Research Centers (研究図書館)”によって構成されている。ⁱ

・ Neighborhood Libraries : ニューヨーク市からの予算によって運営。「地域館は無料で利用できる本、コンピュータ、Wi-Fi及びすべての年齢の人を対象にした、重要な教育プログラムを提供している」

→ コミュニティセンターとしての役割

→ 高齢者のダンス教室は地域の要望によって実現=すべての図書館で行うという考え方ではない

→ 地域ごとのニーズを掬い取るための努力

映画の中には出てこないが、SIBLは大学を卒業しても就職できない学生の求職支援サービスを実施。行き場のない人々が物理的に集まれる場を生み出すことの意義。

→ 人々の日常生活の中、不満の中に図書館が貢献できることがあるのではないか

・ Research Centers : ニューヨーク州からの寄付によって運営

①Stephen A. Schwarzman Building (本館)、②The New York Public Library for the Performing Arts (舞台芸術図書館)、③Schomburg Center for Research in Black Culture (シロンバーグ黒人文化研究センター)、④Science, Industry and Business Library : SIBL (科学産業ビジネス図書館)

② 「公共 (public)」図書館の意味

・「あらゆる」人々に無料で開かれている図書館

→ ニューヨークで生活する人すべて

・図書館は民主主義の柱である(ノーベル賞を受賞した黒人女性作家トニ・モリソン (Toni Morrison) の言葉)

・財源(年間予算約3億7千万ドル)は官(半分をNYC(分館にしか使えない)から、NY州から約2000万ドル(研究図書館用)、残りを民間(寄付、団体からも個人からも)から

→ 集めた予算の使い道を集めた目的に沿って使うことは重要

・映画の撮影は2016年なので、トランプ大統領の就任(2017年)前に撮影は終了し、

編集・・・今年公開されることの意義大

2. NYPL の概要： Annual Reportsⁱⁱと At a Glanceⁱ より

①At a Glance より

New York Public Library の基本統計 FY2018			
来館者数	16.8 百万人	ウェブサイトの閲覧数	26.9 百万件
貸出冊数	23.9 百万件	図書館登録者数	2.2 百万人
提供しているプログラム数	113200 件	プログラム参加者数	2 百万人
利用者用コンピュータ台数	4875 台	利用者がコンピュータを利用した回数	2.8 百万セッション
図書館コレクション中の資料数			
	研究資料 46.8 百万件		
	貸出資料 8.9 百万件		

東京都立中央図書館の基本統計

東京都立図書館『事業概要 平成30年度版』、2018年ⁱⁱⁱより

*特に断りがない場合は都立中央図書館のみの値

来館者数	295682 人	HP トップページへのアクセス数： 都立図書館合計)	895033 件
貸出冊数		利用登録者数 (H30年3月)	5844 人
提供しているプログラム数		プログラム参加者数	
	講演会 113 回		
	展示会 101 回		
利用者用コンピュータ台数	不明	利用者がコンピュータを利用した回数	不明
資料の所蔵			
	図書 2082591 冊		
	逐次刊行物 7603 タイトル		

②財政上の危機を市民が救う

・9.11 (2001年)、リーマンショック (2008年、当時の理事長はリーマン夫妻)、ハリケ

ーン・サンディ (2012年、マンハッタン島南部が被害)

- 図書館サービス縮小の危機、特にハリケーン・サンディからの回復に多額の予算が投入され、NYPLの多くの図書館の閉館が市長によって宣言される
- 世界中から署名等があったという間に集まり、市長は前言撤回、計画は再検討するが、SIBLの建物は売却する計画は予定通りであると見解を示した
- 現在は???

建物の売却に伴い、引っ越しするはずだった Mid-Manhattan Library at 42nd Street をリノベーションし、SIBLも本館に吸収されるのではなく、そちらに同居することに。今年12月に開館予定(*映画の中でコンペを勝ち抜いたオランダの建築家が図書館員に対する建築コンセプトの説明を行っていたその図書館)

- 財政状況は思わしくなく、予算の大幅削減が提示されている。その対抗措置として、HPで寄付を募ると同時に、「図書館はNYCを強くする」というキャンペーンの一環として、図書館はあなたにとってどのような意味を持ちますか?という問いに答えるデジタル付箋を募集している。<http://notes.investinlibraries.org/>

・ピンチの時こそ市民を巻き込んで図書館の必要性を訴えることの意義

- コミュニティに向かって図書館の必要性を問う

・予算については、設置母体が目指すものと合わせていく必要もある

NYPLの場合は市長がリテラシープログラムの推進に関心あり

- リテラシープログラムには予算がつく!

- 自治体の場合は施政方針(首長が変わると...)

・私立大学の場合は???

設置学部との3ポリシー等との関係

学生生活全般を対象にしたサービス展開

「居場所としての図書館」は重要、図書館内でどのような活動を受け入れるか。

(静かな図書館 → にぎやかな図書館)

学生は巻き込む(inclusion)ことで利用を活性化

(例: 本の紹介ポップコンクール、課外活動の成果物を展示、図書館についての意見をグループインタビューを通じて聴取)

研究のための図書館(電子資料がよくつかわれるようになった今、図書館は?)

授業支援(embedded librarianshipはどこへ???)

アクティブラーニング設備...使われていますか?: 利用モデルを示す必要性
高大接続に貢献できるかも(高校生を対象にした情報リテラシープログラムに基づいたアクティブラーニングコースの実施等)

- 教員との協力体制次第か?

3. 大学図書館と公共図書館等他の館種の図書館との接点

①地域開放を実現する手段の一つ（古くからある）

②コレクションを相補的に用いる

例) ビジネス分野の資料

大学図書館： 教科書や研究書

公共図書館（都道府県立中心）： マーケティングリサーチ関連資料

専門図書館： 専門に特化した図書館をピンポイントで所蔵、レファレンスも可

専門図書館は現在、公共図書館との連携を模索中

横断検索システム <https://dlib.jp/> 公開中

→ お互いに研究が必要

③トピックによっては、レファレンスの相互協力可能

④イベント： 同じテーマで展示を開催したり、講演を行ったりする

NYCでは、NYPL、MOMA、メトロポリタン美術館、グッゲンハイム美術館等、
複数の機関で同じテーマの展示を同時開催（例：女性）

→ 日常的な交流に基づく協力（例：たまたま知っているAさん）を正式な書類を交わして（例：当該部署の課長職）協力関係を結ぶことで長期的な協力が可能になる

i New York Public Library, “The New York Public Library: At a Glance,” 2019.

https://www.nypl.org/sites/default/files/18616_at_a_glance_fy18_0.pdf(accessed 2019/06/19)

ii The New York Public Library, Astor, Lenox and Tilden Foundations, “Annual Report 2018: Knowledge is power, libraries make us stronger,” , 2019.

https://www.nypl.org/sites/default/files/18600_annual_report_2018v19_web.pdf
(accessed 2019/06/19)

iii 東京都立中央図書館編『事業概要平成30年版』、2018年

<https://www.library.metro.tokyo.jp/guide/uploads/30jigyougaiyou.pdf>（2019年6月19日確認）